



一昨年、海外援助事業の一環でビクトリア湖畔の魚市場建設に加わった。なにせ遠い国、製作ミスでもあったら大変である。社員2名を先送りし、自分も1月遅れで検査に行くことにした。ドバイ、ケニア経由でムワンザ市まで33時間のハードな出張である。生涯アフリカの大地に立つとは思像すらしなかったが、キリ

マンジャロを越え、とんでもない所まで来てしまった。滞在中はマリリアや飲み水が怖く、食事やホテルにも最後までなじめなかった。手前味噌ではあるが、製品は大変精度が高く、滞在中ノントラブルであった。4

ティンガティンガ

向後 賢司

0円の作業者はまだ幸せなかもしれない。
確認を無事終え帰国した私を迎えに来ていた妻子や社員がびつくりしたことも、笑い話だ。2週間の出張で何と8^キも体重が減った。暑さと食事と緊張のなせるわざであった。もちろん顔もタンザニア焼けである。アフリカボケが薄れてきた頃、都内で大使館主催のティンガティンガ絵画(注)の展示即売会が行われた。それまでは名前すら知らなかったが、動植物や人の暮ら

しぶりを大胆に独得なタッチで描いた絵を見た時、急に郷愁の思いを感じ2枚購入した。ベニヤ板にエナメルで自由に描く技法である。売り上げや儲け本位のわれわれの社会に対し、生活が成り立つだけの収入で多くを望まない姿は、うらやましい限りである。

大自然の中で、太陽のもとで自由奔放に生きられる彼らのほうが、文明社会という別世界に置かれたわれわれより、もしかしたら幸せかもしれない。

(松山鋼材社長)

(注) エドアルド・ティンガティンガが描き始め、弟子たちが受け継いだ東アフリカのモダンアート。